

CT/MRI検査の造影剤使用の禁忌・慎重投与

	CT	MRI
A. 禁忌となる患者		
(1) ヨードまたはヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者	◎	
(2) 重篤な甲状腺疾患のある患者	○	
(3) ガドリニウム(Gd)造影剤に過敏症の既往歴のある患者		◎
(4) 併用禁忌:ビグアナイド系経口血糖降下剤(メルピンなど)****	◎	
B. 原則禁忌となる患者		
(1) 一般状態の極度に悪い患者	○	○
(2) 気管支喘息のある患者***	○	◎
(3) 重篤な腎障害(無尿など)のある患者*	○	◎
(4) 重篤な肝障害のある患者		○
(5) 褐色細胞腫のある患者、疑いのある患者	○	○
(6) その他		
①重篤な心障害のある患者	○	○
②重篤な肝障害のある患者	○	○
③急性膵炎の患者	○	○
④マクログロブリン血症の患者	○	○
⑤多発性骨髄腫のある患者	○	○
⑥テタニーのある患者	○	○
C. 慎重投与となる患者		
(1) 本人または両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹などのアレルギーを起こしやすい体質を有する患者	○	○
(2) 薬物過敏症の既往歴のある患者	○	○
(3) 脱水症状のある患者	○	○
(4) 高血圧症の患者	○	○
(5) 動脈硬化のある患者	○	○
(6) 糖尿病の患者	○	○
(7) 甲状腺疾患のある患者	○	○
(8) 肝機能が低下している患者	○	○
(9) 腎機能が低下している患者	○	○
(10) 既往歴を含めて、痙攣、てんかんおよびその素質のある患者		○
(11) その他:高齢者、小児、妊産婦	○	○

* 当センターでは、GFRを血清クレアチニン値から換算、30ml/min-1.73m²以下を絶対禁忌、30~60ml/min-1.73m²を相対禁忌としております。

連携医からのMRIの造影検査の依頼は、GFR≥60ml/min-1.73m²でお願いします。

高度な腎障害患者(GFR<30ml/min-1.73m²)、肝移植患者は禁忌です。

最近、ガドリニウム(Gd)造影剤による腎性全身性線維症(NSF)の報告があります。

NSFについては直後の透析も有用とはいえ、中等度～末期の腎疾患患者は造影禁忌。

(GFR値は、血清クレアチニン値からの換算表を参照してください。)

** メトロニック社製ペースメーカー(InSync8040)使用中の患者は当該部位のCT検査は、施行できません。

*** 造影剤副作用の死亡例のうち、気管支喘息は基礎疾患として高率で、絶対禁忌としてご配慮いただければ幸いです。

**** 2009年5月、メルピン錠(ビグアナイド系経口血糖降下剤)がヨード造影剤との併用禁忌となっております。〔商品名:グリコラン錠、メデット錠、メルピン錠、ネルビス錠、メトホルミン塩酸塩錠、メリオン錠〕

(赤字が今回改訂部)

MRI検査の禁忌

大変強い磁場の中で検査をおこないますので、装着金属によっては検査が禁忌になります。

(1) 禁忌

- ①心臓ペースメーカー
- ②金属製の心臓人工弁
- ③人工内耳(移植蝸牛刺激装置)、人工耳小骨
- ④神経刺激装置(深部脳刺激装置、TENS装置)
- ⑤除細動装置
- ⑥骨成長刺激装置
- ⑦注入ポンプ等
- ⑧磁力により装着する義眼や磁力部分が着脱不能な義歯
- ⑨磁力により装着する尿道カテーテル
- ⑩冠状動脈等に磁性体のステント挿入後2か月未満の方
- ⑪人工骨頭

(2) 検査を受けることができない事がある場合

- ①脳動脈瘤手術による金属クリップやコイル等
- ②その他の体内金属:外傷による鉄粉(弾丸や鉄片等)
- ③閉所恐怖症の方
- ④入れ墨のある方

(3) その他、検査時に取り外していただくもの

- ①補聴器・装飾品・腕時計・めがね・磁気カード・電子機器等
- ②金属製入れ歯・使い捨てカイロ・エレキバン・ベルト
- ③湿布薬・ニトロダーム・ニコチンパッチ
- ④コンタクト
- ⑤化粧品(アイライン・マスカラ等)